

# もりとおさ

しまね東部森林組合

32号

令和5年9月

山佐川。嫁来い橋から100m下流部の渓谷

7月6日、広瀬町と伯太町に合計23基が計画されている風力発電施設の設定について、慎重な対応を求める要望書を田中市長に提出しました。近年、地球規模の異常気象です。その原因とされるCO<sub>2</sub>を始めとする地球温暖化ガス。一刻も早い削減が求められています。その温暖化ガス削減策のメニューとしての風力発電施設なのですが、工事は私たちが想像するよりはるかに大規模で、山頂部の地形は削られ、樹木も伐採されます。「かなな流し」による砂鉄採取の跡地は急峻な地形で、真砂土の土質です。造成工事によって災害発生の危険性はさらに増します。

いま、しまね東部森林組合では、針広混交林の森林づくりを進めようと考えています。スギ、ヒノキの針葉樹とヤマザクラやオニグルミ、ホオなどの広葉樹も含めた森林づくりは、CO<sub>2</sub>の吸収源としての機能を持ち、豪雨災害に強く、自然の生態系も豊かになります。

バイオマス発電や木材を原料にしたプラスチックの研究開発も急ピッチです。森林を活かした技術が次々と生まれ、地域の林業と共存しながら地球温暖化の防止に貢献していきたいと考えています。

5月31日、伯太わかさ会館を会場に令和5年度総代会を開催しました。提出された議案は、令和4年度の事業決算をはじめ、全部で9件。いずれも、議案通り議決されました。その概要を報告いたします。

## 議決された提出議案

- 第1号議案 令和4年度事業報告、計算書類の承認について
- 第2号議案 令和5年度事業計画設定について
- 第3号議案 令和5年度における借入金最高限度額決定について
- 第4号議案 一組員に対する貸付金の最高限度額の決定について
- 第5号議案 各種手数料率決定について
- 第6号議案 余裕金預け入れ先の決定について
- 第7号議案 令和5年度役員報酬の決定について
- 第8号議案 森林研究・整備機構分収造林三者契約設定について
- 第9号議案 しまね東部森林組合定款の一部改正について



## 令和4年度・事業報告

令和4年は内外共に大きく揺れ動きました。2月にはロシアのウクライナ侵攻があり、一年を経過した今も和平への光は見えません。7月には安倍晋三元首相が街頭演説の最中、背後から銃撃され亡くなられました。さらに本年4月、岸田総理大臣が応援演説の直前に爆発物が投げ込まれるという事件が発生しました。政治家を標的にしたテロの連鎖ともいうべき事態に社

会不安は募る一方です。また、資源価格の上昇、円安の進行等は物価の高騰を引き起こしました。年間を通じ2万品目にもものぼる値上げは私たちの暮らしを直撃しました。そして、本年2月10日、新型コロナウイルス感染症対策本部のマスク着用の方針の見直し及び基本的対処方針の一部が変更されたことにより、4年にわたり経済や日常生活への支障や制約をもたらした新型コロナウイルス対策が一つの節目を迎えました。

さて、令和4年度の組合決算であります。最終損益で12,256千円の黒字となりました。昨年は、金額で4,971千円、68.2%の増です。本業の業績を示す事業利益も8,701千円で、同じく昨年は、金額で1,850千円、27.0%増という結果になりました。「本業回帰」を組合立て直しのメインテーマに設定して以来、平成27年度から低迷を続けた組合収支もようやく本格的な回復軌道に乗りつつあり、組合が目指す安定的な収益構造と黒字体質への転換に歩みを一歩進めたのではないかと考えております。

事業収入につきましては、総額292,123千円であり、昨年は16,707千円の増となりました。なかでも森林整備機構事業、地籍調査事業とあわせ、組合経営の根幹事業として位置づけている林産事業が59,693千円と昨年は17,163千円、40.4%の大きな伸びを達成しました。一昨年のウッドショックの高値が一過性で、

価格的には厳しい状況だったにもかかわらず、昨年に引き続き順調な伸びを確保したことに一定の評価ができると考えています。

事業効率化のなかで林業機械の見直しをしました。平成20年購入のスイングヤーダ、23年購入のハーベスタのアップデートメント、同じく30年のグラップルを売却しました。老朽化した機械、稼働率の低い機械などです。組合の目指す方向と現況とを勘案しながら、必要不可欠で、優先度の高い機械を残し、それにそぐわない機械を処分したものです。今後はリースやレンタルも積極的に活用しながら、稼働率の高い、効率的な運用を図っていきます。

種苗事業では、育苗用のポット、トレーなどの資材を購入しました。ここ数年、育苗方法、資材の変化は目覚ましいものがあります。環境配慮はもとより、省力化、効率化につながる育苗法が展開されつつあります。コンテナ容器による育苗生産、トウモロコシ由来の原料を用いた生分

解性ポット苗、そしてパルプを原料にしたペーパーポットによる育苗方法まで、次々と資材が開発されています。組合では、コストも安価で自然環境を損わないペーパーポットによる育苗法を採用する予定です。今後、育苗技術の向上、知識の習得に努め、苗づくりから伐採・搬出までの林業の一貫した仕組みづくりの構築を進めていきます。

組合経営には、まだ問題点や課題は山積しています。黒字に安住することなく引き続き体質強化を進めなければなりません。地域の森林資源を守り、引き継いでいく使命を果たし、真に信頼される組合となるため、役員一丸となって邁進する所存であります。今後とも引き続き組合員のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

## 令和5年度・事業計画

ロシアのウクライナ侵攻、スーダンの軍事衝突など世界の治安が不安定な状況です。エネルギー、食糧の安全保障もまた脅かされ、昨年来の物

価高騰も私たちの暮らしを直撃しました。林業もどう変わっていくのか、定かには見通せない状況が続きます。林業界におきましても2年前のウッドショックによる価格高騰から一転して逆戻りし、林産事業の安定的な利益創出の難しさは募っています。

組合の令和5年度のテーマは「安全の確保・創意と工夫・着実な成果」です。労災事故

ゼロの「安全」をどう確保するか、早く、効率の良い仕事にするための日々の工夫、そして、そうした日常の取り組みが「成果」につながっていくと考えています。

令和5年度の事業計画ではありますが、事業量は昨年度計画より微増の287、156千円としました。5年度は、昨年に引き続き事業採算性の向上を最優先にしていきたいです。まだまだやるべきこと、改善の余地は多く、今年は、個別事業ごとに収益率向上の阻害要因を抽出し、その改善の対策を速やかに進めることで収益の確保につなげていきます。

また、昨年度から引き続き集約化のための鳥根大学との産学連携の取り組みを進めていきます。集約予定地に合致した施業方法の検討や地形や土質の調査、あるいは、搬出や管理のための路網計画、どのような樹種を植えるのか、そしてその採算性や将来予測など、検討作業を進めていきます。

今年度は、苗木運搬用ドロンの購入を計画しています。これまで人力により植え付け現場まで運んでいた作業をドロンの替えるものになります。現場が急傾斜地であったり、山越えや車両による搬入が困難なときに効果を発揮し、労働の軽減と作業のスピードアップにつながります。鳥根県の平成4年度の繰越事業で採択され、鳥根県と安来市から助成を受け、今年度に納入の予定です。職員2名の研修も併せて実施いたします。さらに苗木運搬だけでなく、他の活用策についても模索、検討していきたいと考えています。

次に、老朽化した3トンド

ンプの更新を計画しています。伐採した立木を山林の現場から土場への運搬用に用いるもので、現有の3トンドの老朽化により更新するものです。導入予定の車両は林業用に特化したもので、車高が高い、4輪駆動でトルクが高い、ホイールベースが短く狭い場所でも小回りが利く、といった特徴があります。5年のリースで導入する予定です、鳥根県及び安来市の助成

をいただく予定です。地域の重要課題である過疎化、高齢化が地域の山林、農地を疲弊させています。耕作放棄され、雑草の繁茂する農地の活用の一策として、クヌギやコウヨウザンの植栽ができませんか、その可能性を検討します。地権者や地域の皆様、そして安来市と、関係機関の皆様との協議を重ね、方向性を見出していきたいと考えております。

これまでの赤字脱却の取り組みを貴重な教訓として生かしながら、地域の林業振興の柱としての機能を果たすため、これからも変わらぬ前進して行かねばなりません。組合員の皆様の組合として、これからの役員とともにさらに知恵を絞り、汗をかかねばなりません。引き続き、関係機関のご指導、ご支援とともに組合員のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

### 部門別損益計算書

(R4.4.1～R5.3.31) (単位：千円)

部 門	R4年度実績
指 導 事 業	収益 費用 683
販 売 事 業	収益 59,693 費用 49,459
森林整備事業	収益 232,430 費用 186,171
事業収益合計	292,123
事業費用合計	236,313
<b>事業総利益</b>	<b>55,810</b>
事業管理費	費用 47,109
事業外	収益 4,027 費用 2,574
特 別	収益 2,398 費用
<b>税引前当期利益</b>	<b>12,552</b>

### 貸借対照表

(令和5年3月31日現在) (単位：千円)

資産の部	金額	負債・資本の部	金額
現金・預金	111,275	買掛・未払金	24,897
売掛・未収金	84,703	その他	16,194
棚卸資産	3,504	<b>流動負債合計</b>	<b>41,091</b>
その他	1,987	転貸資金借入	
		諸引当金	10,630
<b>流動資産計</b>	<b>201,469</b>	<b>固定負債計</b>	<b>10,630</b>
有形固定資産	78,614	<b>負債合計</b>	<b>51,721</b>
無形固定資産	1,576	出資金	192,285
転貸資金貸付		法定準備金	22,420
外部出資	12,329	特別積立金	33,692
<b>固定資産計</b>	<b>92,519</b>	当期末処分剰余金	△ 6,137
		(内当期剰余金)	12,256
		資本準備金	7
		<b>資本合計</b>	<b>242,267</b>
<b>合 計</b>	<b>293,988</b>	<b>合 計</b>	<b>293,988</b>

### 各種手数料の料率(但し消費税別)

区 分	基 準	料 率
造林補助金取扱手数料	補助金	10%以内
受託森林整備手数料	事業費	20%以内
受託林産手数料	売上高	15%以内
転貸資金等取扱手数料	転貸額	1%以内
購買・販売手数料	売買価格	15%以内
諸証明手数料	1件につき	5,000円以内
林地供給手数料		
契約金額 100万円未満	契約金額の10%以内	
// 100万円以上～200万円未満	//	9%以内
// 200万円以上～300万円未満	//	8%以内
// 300万円以上～400万円未満	//	7%以内
// 400万円以上～500万円未満	//	6%以内
// 500万円以上	//	5%以内
測量及び調査費		実費

### 令和4年度損失処理

(単位：円)

摘 要	合 計
I 当期末処理損失金	6,137,526
II 次期繰越損失金	6,137,526

### 組合員及び出資金

区 分	4年度末現在
組合員数	3,702人
出資口数	384,569口
出資金総額	192,284,500円





植付作業を終え、市長を囲んで役職員一同で記念撮影をしました

- ・経営の三本柱を「林産事業」、「森林整備機構事業」、「調査事業」とする
- ・最終損益は11,208千円の赤字。2年連続

#### 平成30年度（2018年）

- ・世界規模の気候変動。集中豪雨による被害と猛暑。松江地方気象台では8月に37.8度を記録。
- ・新しい代表理事組合長に伊藤耕治氏就任
- ・職員2人が熱中症で点滴治療を受ける。いずれも即日退院するも熱中症対策は急務に
- ・現場の職員全員に空調服を支給。猛暑への対策
- ・猛暑によりコンテナ苗の生育不良で苗不足を招く
- ・母里オケ峠地区で集材機による架線集材を実施
- ・最終損益は1,676千円の赤字。3年連続に

#### （平成31年度）・令和元年度（2019年）

- ・年末から新型コロナウイルス感染症が世界的な流行に。
- ・早生樹コウヨウザンの植林スタート。安来市の苗木助成制度も創設される
- ・森林三次元計測システムを導入。森林データ収集の迅速化を図る。組合のICT機器の活用始まる
- ・架線集材の資機材を購入
- ・事業キャンセル、職員の体調不良による休職等で事業進捗の停滞を余儀なくされる
- ・最終損益は5,324千円の赤字。4年連続

#### 令和2年度（2020年）

- ・新型コロナウイルス感染症、世界で猛威を振るう。対策に追われる。総代会は初めての書面議決に。
- ・機構改革。林産計画課、森林整備課を新設し総務課と併せて3課体制とした。企画指導課は廃止

- ・出材量の増加により伯太町卯月の中間土場を拡張
- ・広瀬町坊床地区で計画面積75haの施業集約化事業スタート。本格的な施業集約の第一号
- ・27年度購入の高性能林業機械にかかる減価償却費の負担がピークを越える
- ・最終損益は1,122千円の黒字。ようやく赤字を脱却

#### 令和3年度（2021年）

- ・新型コロナウイルス感染症、次々と変異株出現
- ・第3次ウッドショックで木材価格が高騰
- ・林産事業が回復。42,529千円で対前年度伸び率は2倍に。木材生産能力は着実に成果を挙げる
- ・組合初めてとなるフォーリングブロックによる集材を実施。架線集材のバリエーション増える
- ・デジタルコンパス、GPS等、ICT機器の新規購入と更新を進め、業務の効率化、迅速化を図る
- ・コンテナ苗の栽培棚等、育苗施設の整備充実。本格栽培に踏みきる。当面、15,000本の生産を目指す
- ・最終損益は7,284千円の黒字。順調に利益を伸ばす

#### 令和4年度（2022年）

- ・激動の社会情勢…新型コロナウイルス感染症の脅威続く。ロシアによるウクライナ侵攻。安倍元総理、凶弾に倒れる。資源価格の上昇、円安の進行等で物価高騰し国民生活を直撃
- ・施業集約化、針広混交林施業、林業技術等の推進を図り、鳥根大学との産学連携の取り組みスタート
- ・組合合併20周年記念事業として広瀬町坊床の市有林0.5haに1,000本のスギ、ヒノキを植林
- ・最終損益は12,256千円の黒字。営業利益率も組合再建の第一段階の目標としていた30%を確保した

# 合併21年目を迎えた しまね東部森林組合

## 10周年以降の歩みを振り返る

平成14年4月1日、当時の広瀬町、伯太町、安来市の1市2町の森林組合が合併して発足した「しまね東部森林組合」。当初は広瀬を本所として、伯太、安来とそれぞれに支所がありました。当時はバブル崩壊後でデフレ不況といわれた日本経済の閉塞感が国内を覆っていた時代でもあります。そして、10周年の年、平成24年は、民主党に政権交代から3年目野田総理の時代です。その民主党政権も11月の総選挙で再び野党へ。自民政権に代わりました。

組合は、10周年以降、アベノミクスの成長戦略、財政出動などの三本の矢といわれる経済政策で安定した経営を続けましたが、平成27年度から経営が悪化し、その再建に数年の時日を費やすことになりました。

この頁では10周年以降、平成25年度から令和4年度までの歩みを振り返ってみます。

## 20周年記念行事

田中武夫 安来市長をお迎えして、広瀬町坊床地区の市有林に記念植樹をしました

令和4年11月3日、しまね東部森林組合合併20周年の記念行事として、田中武夫安来市長をお迎えして広瀬町坊床地区の市有林0.5haにスギ500本、ヒノキ500本の計1,000本の植林をしました。

当日は、爽やかに晴れわたった日差しの中、市長をはじめ組合の役職員47人とともに約2時間の植付作業に汗を流しました。



植林開始の前に田中武夫安来市長に挨拶をいただきました



エンジン付の植付機も登場です



苗は2年生の大苗です。すくすくと伸びることを願っています



これから30年、40年の成長を見守ります

### 平成25年度（2013年）

- ・第二次安倍政権の経済対策「アベノミクス」始動。「三本の矢」による財政出動で事業量伸びる
- ・市営住宅2棟の市産材を供給する
- ・農林中金80周年記念森林再生事業(24～25年度)の取り組み成果を発表
- ・ナラ枯れ被害拡大。カシノナガキクイムシが感染源に。被害対策も有効な手立てなく拡大の一途
- ・鳥木町内会の所有林8.5haの新植終える。事業年度21～25年度。併せてシイタケ原木14,000本も生産
- ・最終損益は4,800千円の黒字

### 平成26年度（2014年）

- ・8月11日が「山の日」に制定、国民の祝日となった
- ・循環型林業の確立に向け、5年後の木材生産量を10,000m<sup>3</sup>とする目標を掲げる
- ・最終損益は2,241千円の黒字

### 平成27年度（2015年）

- ・循環型林業元年と位置付け、利用間伐に加え主伐も視野に入れた業務を目指す
- ・高性能林業機械のプロセッサ、スイングヤードを購入。3トントラック、グラブプルをリース契約
- ・事業損益で15,898千円の赤字となり、以後4年間、財務の悪化に苦しむことになった。最終損益は、補助金の圧縮処理をせず1,077千円の黒字を確保
- ・平成28年2月、代表理事組合長 澤田直明氏の辞任により新しい代表理事組合長に山尾駿一氏就任

### 平成28年度（2016年）

- ・7月、機構改革に併せ人事異動。新たに企画指導課を新設し、事務所を伯太支所に置く
- ・職員の辞職相次ぐ。欠員は不補充とし経費を抑制
- ・スズメバチ駆除事業を開始
- ・特殊伐採チーム「ランバージャック」を結成。業務をスタートする。県下の組合で初めてとなる
- ・最終損益は31,651千円の赤字。組合経営の抜本改革の取り組みは不可避に

### 平成29年度（2017年）

- ・職員の定期昇給1年延伸、退職者不補充の措置等、事務費の見直しなど経常経費の削減を進める
- ・「本業回帰」をメインテーマに、事業コストの見直し、計画進捗の徹底を図る
- ・次世代苗の「コンテナ苗」栽培に着手
- ・積極的な研修への参加、外部講師の招聘等により、職員のスキルアップに努める
- ・ドローン導入により調査・計画業務の効率化、迅速化を図る（県下組合で初の導入）

## 届出・連絡の お願いです

□組合員の変更…組合員が亡くなられたときの相続加入、持分の譲渡、住所変更などがあったときには手続きが必要です。

□地区委員の変更…地区の事情等により地区委員の変更をされた場合は手続きをしてください。

□お問い合わせ  
しまね東部森林組合  
Tel 32-2680へ



高齢化、過疎化、山離れ…。山に活気を

・選挙期日：令和5年11月23日（木）  
・投票時間：午前7時～午後5時  
・定数：210人  
・選挙区ごとの定数  
第一区（安来地区）：32人  
第二区（広瀬地区）：110人  
第三区（伯太地区）：68人  
・投票場所  
第一区：しまね東部森林組合本所小会議室  
第二区：しまね東部森林組合本所大会議室  
第三区：しまね東部森林組合伯太支所  
・任期：3年  
・告示日：11月10日（金）  
・立候補締切日：11月20日（月）  
【無投票となったとき】  
11月21日（火）、組合本所、伯太支所に公告します。

## 総代選挙

今年、令和5年は、総代の改選の年になります。任期満了日は12月3日で、新しい総代は選挙によって選ばれ、その日程は次のとおりです。

## 3年ぶりに安全衛生大会

### 人権学習と猛暑対策を学習

8月25日、伯太中央交流センターで安全衛生大会を開催しました。

最初に、安来市の人権施策推進課から曾田淳史先生をお迎えして、人権とは何か、何人が人をつけ、何が人と人の関係を損なうのか、無意識の

偏見について、日常生活の出来事も交えながら分かりやすくお話しいただきました。

次に、「熱ストレスと障害」と題し米子市のレア・カイロプラクティック院長の森田育生先生に具体的な熱中症の予防対策を聞きました。氷を入



思い込み、見た目にとらわれないために…



熱中症の症状が劇的に回復しました



当日、午前中は刈払機研修です

れた袋の使い方、併せて500ccの経口補水液の摂取をすることなど、対策の実践的な内容に会場の職員から活発な質問が出ました。

最後は、職員を代表して丸山浩史班長が力強く安全宣言を読み上げ令和5年度安全衛生大会を終了しました。

おめでとうございます

就労優良表彰（敬称略）

恩田 貴裕

郷原修一郎

## ツチアケビ・絶滅危惧種です

これは果実です。布部の山中に見つけました。見たとき、その鮮やかな色に、毒かな？調べてみるとラン科の植物で、環境省のレッドリストに

載る絶滅危惧種です。アケビの実に似ており、地上に生えることからこの名が付いたといわれます。薬用酒にされたりしますが効能は不明です。



長さ6〜10cm位です。草丈は高く、林の中で目立ちます。